特42
459

藤戸

東京圖書館

和書門	音楽類	函	四七 架	一一〇 冊
				七八 號

東京帝國大學圖書之印

藤戸

行末やく藤戸

八渡り(平)の浪に昔の人乃

三日月(ミカ)なれ(ハ)ども(ト)

此(ハ)ども(ト)

入部(ウヤ)仕(ツカ)ふ秋津(ツ)の浪(ト)

第壹

鴻のうゝ松吹風も長閑なる
空霞めるあさぼらけ
浦つたひ荻戸より早く美濃きりく
いつかの知らぬ間前の作 皆し
詞詰めんとする者八兵衛とて
長てんぐのよう皆を慢る風に洲浦
の住作木殿の御入部なして有る

仕事もうまくあるん者八兵衛
ト
者の彼の荻戸の明暮よ
昔の書の人くまうり
見ぬるかの詞詰めをみる時
めくとあくく行くるあるこう
海士のかるもよすがを
たにあるめ世をいまよ仕る根ん本なる

も。因果乃めくるまに小車のやたきを
人の罪科へ皆報ひてとらひあるく
我子なりとも罪科もためも
涙の底よりおもひ出情なるぞ
よつきてひとおもきれたぱ前よりまり
ていまり早月仆と物をを涙よ流り
恨とハ更よ思ひもと 梅なる物を

波よ流めなひ 芦ハ人 あ音尺
ゆ仆とく 芦ハ人 あ物も人いたとと
あ物ぞ中しよ長ゆ根を歌りて泊を
も弟ひよハ世よぞ生たる母ゑ者も
ぞひ慰めてひ給ひ根もたる
きよ 元ニコトト 元ニ月 いひ法とてか君ぞ山ぞ
ひあさ世の人乃拙ひ草もたけ

きあと行と浸の家 上三段 住果ぬ世
ハ儀の宮あるを親ゝとして行や
恋ぶまろうよ生れてあるきハ悲ひ
つぶるゝをひくぐまつゝ苦
しこの海よ深ゝ沼ひと貴て生ハを
浦へや跡とゝろをたまくや言語
道断ゝ不便成すゝゝ今ハ

行ゝゝ出くぎ月舟の方様語りて
ゆきくへ〻ゝ国人物も去
年三月廿五日の夜ゝ浦て男を
入ちゝぎ此海を馬ゝ渡とくき
所やゝと寄しよ波者やうゝ
行頼乃程ある所のゝ月ゝよ東
あゝゝ乃まよハ西よあゝとゝ即

八幡大菩薩のつかはせ給ふと思ひ、家の子わらはらもみな〳〵陽〳〵ばかり者と呼ぶ二人ばかりまゐれば、悲田、法華、法師あさうを人賣ばかりなり。感嘆のよしをもうしやく〳〵下臈、筋助ぶき者みな〳〵ばかりや人よ語らんと思ひ、不便なれば、おかしかりもどうく川よりを二月ばかり。長まる海よ

沉めらく歸りてはまぬ海ばかりあり
きるよりおのれ行方も苔むすまで
と思ひしとは恨をばかなしく人（女房）
をたづねて行方はいとわびしいつ
をたづねて行方はいとわびしいつ（中）
きしの岩がきにわかれの水のうへにぞ
袖をしぼりかねてはまぬ人（下女）

しをずとも先ゝ行きぬるほ
とゝぎす夕波の事なく
こゝ迄よべ来たりしよ
うなれば
頃く隠きたるあき江を
思へども ぬるゝ門を出て
里をゆきたゞを長れぬ親ある
まいらきごとくも何の酬
恩事なし

親の育あるはたを
思ふ道よ朱とそ人は知れ
ばゝ身も宮めわ
ぶ世の知りまれあい
ぶ者ゆ宮わ宮つ
ちきいそ羅面
乃ちあれや夢
ばゝ子あまりの

[illegible]
の世よりつゝきいとゝ世をあはうきゝ
きけさ行の様をしら去なうれ
ぬ人の此世を去ぬきゝ行よかゝ
し露をかきてまうしもあゝ
うゝ中のうきゝ事ぬるゝ
同道よりてたゝ世給へとゞめも

[illegible]
きゝ人仰まうひ申ようへ中をゝ
ゝ[illegible]ぬきゝ様をゝ[illegible]
ぬゝ不侵や[illegible]様てもうひぬきゝ
ゝてゝゝゝ彼者の跡をも弔ひ書
子をも世よ立ゝもゝるゝてゝぬゝ
ゝやゝゝゝゝゝゝゝゝ
彼者不便ゝ程よぎゝ[illegible]

ものゝ今乃毎をも世よ立つする
きく有り昔より仏ゆ人ゆ極くよ
弟梅法の色たてゝ
乃ようとなく書たわつね弟ひめ般若
祝のもうつうつうゝ真ともつおもとおく
法の心を為め聲をあき　一切有
情教宮三界衆陰悪趣　引や

思ひ出ゝ長とゝ
おもひあまぎ出てゝ
宮めかゝ科よゝ
心罪ゝ科ゝ罪科もうへまよ
よゝ海路の知へ思へ三途
ぎつをゝ
水よりぎたゝ人のみしゝへば

亡者もや三途の川を渡りて
きたれ　川岸にかゝる網をたぐるみち
畫ぬ筆執をどりたん為よりたゞ
ひとゝ恨もなき月のごと　甚よりなる浦波の
教戸の渡をもとへよとのごとく行もき
岩波のげ瀬の樣なる通りと
教へしまくよりしるへ　引箭の

昔より人のよ
ゆかるゝあくの道のつゝか
まるまで馬をくらうをわるく事
奈代の樣なるきゝとて　洪鴻を恩
ゆるゝ　清ひたも我ゆへなるは
ひろかる恩をも　なるへきよ　とかれ
ゆゝ一命をゝろ　ゆゝ馬をくゝ海
を渡ととりもゝ見そう奈代の為

ニ、一、元、一、元、一、一、一

やもくしば署よりてい出
ニトヤアニ
月よ至りくてヤフ成仏たつの方
ヤ
やなりぬ成仏乃ものとうあるよ
きれ

右之本者観世太夫織部
章句眞本令版行畢
正徳六丙申歳弥生
天保十一庚子歳孟春改正再板
皇都二条通御幸町西江入町
山本長兵衛

明治十七年三月六日翻刻御届
同　年四月十二日別製本御届

翻刻人　京都府平民　寺田熊次郎
下京區第五組麩屋町
錦小路上ル梅屋町十三番戸

定價四錢